

資料 1

平成 26 年度

北栄町教育委員会の事務に関する外部評価報告書

北栄町教育行政評価委員会

はじめに

この報告書は、北栄町教育行政点検評価委員会による平成26年度北栄町教育委員会の事務に関する点検及び評価である。この評価及び点検は、平成19年に改正された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の第27条の2項に基づき北栄町で平成21年度から行われている。

北栄町は平成17年10月に二つの町が合併し、平成19年7月には北栄町教育委員会が「北栄町教育ビジョン～子どもから高齢者まで 学びを通して夢を実現する」を制定した。

上記の法律改正に基づき、まず平成20年度以降には北栄町教育委員会内部による点検及び評価が実施された。これは町のビジョンの二つの基本目標である、「豊かな自然と優しい地域の中で、子どもがすくすくと育つ環境づくり」と「町民みんなが、人権を尊重して仲よく暮らせ、楽しく学び、夢が実現できる環境づくり」がそれぞれ4つと2つの施策の柱から構成されており、平成26年度については、その6つの施策の柱「1. 乳幼児が安心して、すくすく育つ家庭」、「2. 地域での活動や地域人材の活用で、町の自然や歴史、文化、人を学び、町に愛着を持つ子ども」、「3. 仲よく遊び、学び、他人の気持ちを思いやる心根を持つ子ども」、「4. 子どもが意欲を持っていきいき学び、基礎・基本を身につける学校教育」、「5. 人権を尊重する気運が社会に根付き、豊かな人間性や社会性を身につけた人があふれる町」、「6. 学習やスポーツに積極的に参加し、文化や芸術に親しみ、心身ともに健康で、自らの夢を実現させる人があふれる町」を推進するための事業について、それぞれA、B、C、D、Eの5段階で評価された。60%の事業計画はCとされ、全体としても概ね指標通り達成できたと評価された。

平成20年度の内部評価以降、北栄町教育行政点検評価委員会による外部評価を平成21年度の3回に続き、平成22年度に3回、平成23年度に3回、平成24年度以降は4回実施した。当委員会では、平成26年度に評価対象事業として25事業の評価を行った。

評価基準は、平成21年度と変わらず次の5つ「事業が継続的なものであったか」、「対象をできるだけ広くとらえていたか」、「参加者は事業に満足できたか」、「事業実施の予算的裏付けがあったか」、「当該事業がビジョン実現に貢献したか」とした。

尺度については、平成21年度では内部評価と同じ3段階（A＝目標以上に達成できた、B＝目標通り達成できた、C＝ほとんど、全く達成できない）とした。しかし、平成22年度はさらに細かく評価するために5段階（A＝目標を大幅に達成できた、B＝目標をいくらか超えて達成できた、C＝目標どおり達成できた、D＝目標を一部達成できなかった、

E＝ほぼ全く達成できなかった)に変更し、平成23年度以降も同様とした。

これらに基づき全25の個別の事業を評価した。「サマースクール(夏休み小学生勉強会)」の1事業(前年度より7事業減少)は総合評価でBとし、「学校給食の地産地消の取り組み」「小中学校における栄養教諭・学校栄養職員による食育の実施」「巡回展示館の実施」「学力向上週間の取り組み」「いじめに関する調査」「ケータイ・インターネット講演会」「じんけんフェスタ」「人権教育推進協力員、地区推進員等の研修」および「北栄ゆら由良川くだり」の9事業(前年度より0事業減)をD評価とし、E評価の事業は0(前年度も0事業)とした。他の15事業の総合評価はCとした。

評価点検のプロセスで、委員からは様々な質問や意見、具体的な改善案も提案され、これらに対して詳細な回答等もされた。この度、全事業が5度目の外部評価となった。今後は、個々の事業単位のみならず、全事業を通して町村合併後10年経過してより一層の地域間の融合と各事業の年度内の逐次改善活動の充実が必要と思われる。

北栄町教育行政評価委員会	会長	野津	伸治
	委員	手島	寿恵
	委員	松本	晴樹

子どもから高齢者まで 学びを通して夢を実現する

基本的な考え方

豊かな心と自ら考え行動する力を持ち、
自己実現ができる『人』

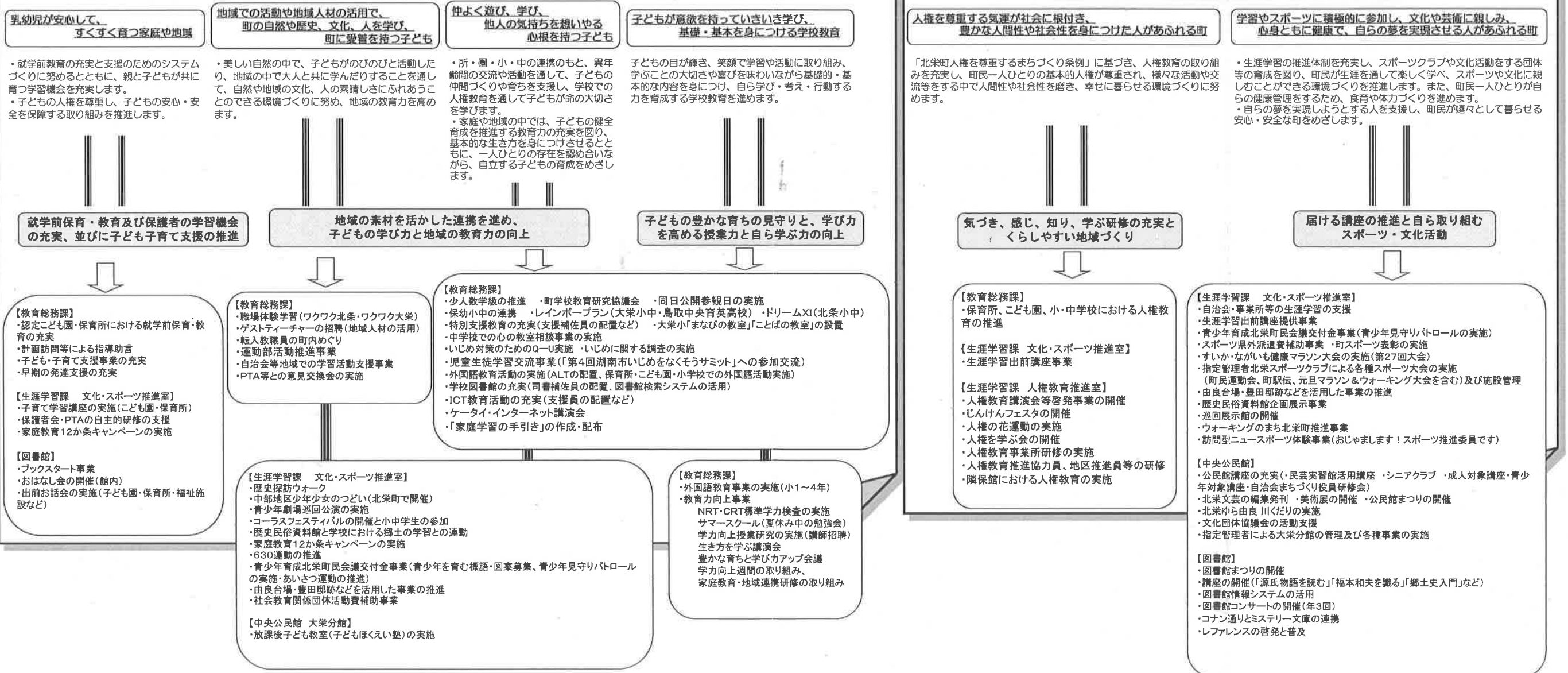
めざす人間像（町民像として）

- ・町の自然や歴史、文化、人に愛着と誇りを持つ
- ・命を尊重し、優しさや思いやりなど豊かな心を持つ
- ・生涯を通して、進んで学習し、自己実現を図る
- ・自らの食や健康に気をつけ、体力の増進や精神の高揚を図る

基本的な進め方

豊かな自然と優しい地域の中で、子どもがすくすくと育つ環境づくり

町民みんなが、人権を尊重して仲よく暮らせ、楽しく学び、
夢が実現できる環境づくり



平成26年度
重点施策

主要事業

平成26年度 北栄町教育行政評価(外部評価)

【 総 括 表 】

整理番号	評価事業名	最終評価	ページ番号
外内1	家庭教育12か条の推進事業	C	5
外内2	学校給食の地産地消の取り組み	D	6
外内3	小中学校における栄養教諭・学校栄養職員による食育の実施	D	7
外内4	同日公開参観日	C	8
外内5	自治会等地域での学習活動支援事業	C	9
外内6	サマースクール(夏休み小学生勉強会)	B	10
外内7	歴史民俗資料館展示事業	C	11
外内8	巡回展示館の実施	D	12
外内9	学力向上週間の取り組み	D	13
外内11	レインボープラン(大栄小・中・中央育英高校)	C	14
外内12	ドリームプロジェクトX(北条小・中)	C	15
外内14	いじめに関する調査	D	16
外内15	児童生徒交流事業(滋賀県湖南市との交流)	C	17
外内16	青少年育成北栄町民会議交付金事業(あいさつ運動の推進・啓発看板の作成)	C	18
外内28	ケータイ・インターネット講演会	D	19
外内17	大栄小「まなびの教室」の設置	C	20
外内19	特別支援教育補佐員の配置	C	21
外内20	社会教育推進事業(生涯学習出前講座提供事業)	C	22
外内21	人権を学ぶ会の開催	C	23
外内22	人権教育講演会の開催	C	24
外内23	じんけんフェスタ	D	25
外内24	人権教育推進協力員、地区推進員等の研修	D	26
外内25	民芸実習館活用講座	C	27
外内26	北栄ゆら由良 川くだり	D	28
外内27	土曜講座(「源氏物語を読む」「福本和夫を識る」「郷土史入門」)の開催	C	29

		整理番号	1
		担当課名	生涯学習課
(1) 評価事務事業：当初確認事項			
事業名	家庭教育12か条の推進事業		今年のしごと チラシ等 P25
教育ビジョン	小項目	1 乳幼児が安心して、すくすく育つ家庭や地域	その他共通ビジョン項目 1-3
	具体的な目標	4 家庭教育の充実	3-4 3-6
事業の目的・概要	【目的】 家庭・地域の教育力向上(健やかな子どもの成長と子育てに関わる家庭・学校・地域における意識の浸透と雰囲気醸成) 【概要】 みんなが知っている、みんなが取り組む12か条を目指し、「家庭教育12か条」を毎月1条ずつ紹介しながら、多様な取組みを進める家庭教育12か条キャンペーンの実施		
事業の効果	【効果】 基本的生活習慣の定着による子どもの健やかな成長とその必要性の普及 子育て家庭を始め、学校、地域で子どもたちを育ていく共通認識の浸透と協働による取り組みの活性化		
具体的な取り組み	TCC放送「いつでも12か条」：毎月のテーマに応じた街頭インタビューや絵本朗読など 保育所・こども園掲示板「わが家のおすすめ子育て知恵袋」：家庭での取組を保護者が気軽に紹介 保育所・こども園・学校「おたよりのすみっこPR」：おたよりの余白で各月のテーマを掲載 町ホームページ：各月のテーマに関する情報提供、おたよりのすみっこPR素材の配信など その他：告知放送や広報等を活用したPR		

【最終評価】

事務局	事業実績	TCC特集番組「いつでも12か条」の製作 保育所・こども園掲示板「わが家のおすすめ子育て知恵袋」毎月実施し町ホームページで紹介 保育所・こども園・学校・教育委員会「おたよりのすみっこPR」各月のテーマを掲載 町ホームページ、告知放送、広報等様々な媒体の活用による情報提供、おたよりのすみっこPR素材の配信						
	指標 (具体的な 数値目標) の達成度	指標名／単位	H26	H26計画値				
		TCC特集番組の制作／回	12	12				
		HP及びすみっこPR継続実施／回	12	12				
	事業費 (千円)	今年度予算額	32	今年度	15	差引	17	【説明】
		前年度決算額	3	決算見込額			3	
	成果・効果	TCC番組、保育所・こども園掲示板、「おたよりのすみっこPR」、町ホームページ、告知放送、広報等様々な媒体の活用により「家庭教育12か条」をPRし、子育て家庭を始め、学校、地域で子どもたちを育ていく共通認識の浸透と協働による取り組みの活性化を図った。						
課題	効果の把握方法							
改善方針	●内容を変更して実施 既存アンケート等の分析や、教育関係者・各種団体への聞き取りから住民意識の変化、子どもの姿の変化を把握する。							
評価	最終評価	【意見等】 毎月のすべきことは具体的に何をすべきか分るようになっていない。 これから効果が出るころ、来年からは成果を模索して行っていきたい。 こども園、小・中学校でも月ごとに掲示してもよい。 保護者を巻き込むとよい。						
	C							

※ 評価確認事項

★評価の観点

① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	2	
		担当課名	教育総務課	
【評価事務事業：当初確認事項】				
事業名	学校給食の地産地消の取り組み		今年のしごと	チラシ等
教育ビジョン	小項目	1 乳幼児が安心して、すくすく育つ家庭や地域	P23	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	6 食育の充実		
事業の目的・概要	【目的】 学校給食等への地元農水産物の積極的な利用促進の推進により、子どもたちに郷土の農業、食の重要性に対する理解を深めさせ、ごはんを中心とした日本型食生活の普及を図るとともに、生産者の意欲向上と地産地消の推進を図る。 【概要】 地元生産者団体との地産地消検討会を毎月実施し、野菜や果物、加工品等の供給量について協議を行う。それらを学校給食の献立に生かすことで、地元産の食材を多く使うことができる。			
事業の効果	【効果】 ○地元産の食材を多く取り入れた献立を出すことで、子どもたちに旬や地域の産業について知らせることができる。その結果、自分たちが住んでいる地域の良さを知ることができ、ふるさとを愛する心を育てることができる。 ○食材の提供だけでなく、子どもたちとの交流給食などを行うことによって、食育の推進にもつながる。			
具体的な取り組み	○毎日…給食メッセージ(給食時放送原稿)で地元産食材の紹介 ○毎月…地産地消検討会(JA女性会・センター長・栄養士・調理員) ○学期ごと…学校給食用食材の生産地別使用状況調査報告 ○1月(学校給食週間)…交流給食(JA女性会) ○地元産食材を多く取り入れるための献立の研究 ○委託調理業者との連携(作業効率を高める) ○地元生産者との連携(情報の共有)			

【最終評価】

事務局	事業実績	・小中学校での計画的な食育指導 ・北条こども園での食育指導 12/26 にじ組・そら組 テーマ「野菜パワーのひみつ」						
	指標 (具体的な 数値目標) の達成度	指標名／単位	保護者対象	元産・正使利 金				
		食育指導(北条小)	6/10実施済	計画的に実施中				
		食育指導(大栄小)	10/10実施予定	計画的に実施中				
		食育指導(北条中)	未実施	計画的に実施中				
		食育指導(大栄中)	未実施	計画的に実施中				
	事業費 (千円)	今年度予算額	0	今年度 決算見込額	0	差引	0	【説明】
		前年度決算額	0				0	
	成果・効果	・栄養教諭が三朝町との兼務で配置され、児童・生徒向けの指導は概ね順調に実施された。 ・昨年実施できなかったこども園での食育指導ができた。(栄養教諭作成の教材の活用)						
	課題	・栄養教諭が兼務だったため、食育指導の日程調整が難しいこともあった。 ・残菜量が小学校では5月と10月を比較すると0.4ポイント減ったが、中学校では2.8ポイント増えた。						
改善方針	・こども園でのテーマ(偏食をなくす)を考える。 ・中学生の残菜をなくす。							
評価	最終評価	【意見等】・まだまだ野菜の種類なども増やせと思うので検討会の内容をもっと密にして協力し合い増やしてほしい。 ・北条中学校で東海大学 小沢先生の講演会が開催されたよいこと。 ・ホームページで食の大切さについて保護者賛歌の呼びかけが必要。						
	D							

※ 評価確認事項

★評価の観点

① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

整理番号	3
担当課名	教育総務課

【評価事務事業：当初確認事項】

事業名	小中学校における栄養教諭・学校栄養職員による食育の実施		今年のしごと	チラシ等
教育ビジョン	小項目	1 乳幼児が安心して、すくすく育つ家庭や地域	その他共通ビジョン項目	
	具体的な目標	6 食育の充実		
事業の目的・概要	【目的】 児童生徒に食に関する指導を行うことにより「食事の重要性」「心身の健康」「食品を選択する力」「感謝の心」「社会性」を家庭や地域と連携しつつ身に付けさせ、食育を通じた自立した子どもの育成が目的である。 【概要】 学校給食を生きた教材とし、給食を通して「食に関する知識」「食品を選択する力」「社会性」を身につけさせる。学校との連携をはかり、全体計画を立てて指導を行う。			
事業の効果	【効果】 ○児童生徒が食に対して興味関心を持ち、食に関する正しい知識や選択する力を持つことができる。 ○計画的に指導を行うことで、児童生徒の健康や食に対する興味関心が高まり、残菜を減らすことができる。 ○朝食欠食率の低下につながる			
具体的な取り組み	○食に関する指導の全体計画を作成する ○給食訪問を行い、給食を教材として指導を行う(全クラス) (5月には朝食が体に与える効果をテーマに朝食の重要性について指導する) ○学校と連携し、学級活動等で食に関する指導を行う ○試食会において保護者へ食育についての講話を行う ○献立表、給食だよりを通して家庭への食育を推進する ○アンケートを実施する。			

【最終評価】

事務局	事業実績	・小中学校での計画的な食育指導 ・北条こども園での食育指導 12/26 にじ組・そら組 テーマ「野菜パワーのひみつ」					
	指標 (具体的な数値目標) の達成度	指標名／単位	保護者対象	児童・生徒対象			
		食育指導(北条小)	6/10実施済	計画的に実施中			
		食育指導(大栄小)	10/10実施予定	計画的に実施中			
		食育指導(北条中)	未実施	計画的に実施中			
		食育指導(大栄中)	未実施	計画的に実施中			
	事業費 (千円)	今年度予算額	0	今年度	0	差引	0【説明】
		前年度決算額	0	決算見込額			0
	成果・効果	・栄養教諭が三朝町との連携で配置され、児童・生徒向けの指導は概ね順調に実施された。 ・昨年実施できなかったこども園での食育指導ができた。(栄養教諭作成の教材の活用)					
	課題	・栄養教諭が兼務だったため、食育指導の日程調整が難しいこともあった。 ・残菜量が小学校では5月と10月を比較すると0.4ポイント減ったが、中学校では2.8ポイント増えた。					
	改善方針	・こども園でのテーマ(偏食をなくす)を考える。 ・中学生の残菜をなくす。					
評価	最終評価	【意見等】 ・残菜量の推定原因(中学生になったら太ることを気にするから)は必要栄養素量と太りすぎかどうかの判定(例.BMI)などで客観的な認識が必要。 ・1年ごとにテーマに沿って進めてほしい。 ・北条・大栄中の9月以降の残菜量が多い。					
	D						

※ 評価確認事項

★評価の観点

① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	4
		担当課名	教育総務課
【評価事務事業：当初確認事項】			
事業名	同日公開参観日		今年のしごと チラシ等
教育ビジョン	小項目	1 乳幼児が安心して、すくすく育つ家庭や地域	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	7 地域で育てる教育の充実	
事業の目的・概要	【目的】 町民に、子ども園での生活や遊び、学校での学習場面での様子を知っていただくため。 【概要】 年2回、町内の全保育所・こども園、小学校中学校を1日公開する。誰でも好きな時間に参観することができる。		
事業の効果	【効果】 ○所・園・学校の取り組みが理解され、家庭・地域・学校の連携を進めるきっかけとなる。 ○保護者や地域の声を所・園・学校経営に活かし、保育・教育の一層の充実を図ることができる。		
具体的な取り組み	○広報活動を行い、多くの町民に参観していただけるようにする。 ・広報「北栄」、TCC文字放送・データ放送、町告知放送、チラシ、町のホームページ等。 チラシは、自治会長会、民生委員会、議会でも配布し、広く呼びかける。 ○地域の人に学ぶ、地域の人と触れ合う活動や学習を可能な限り取り入れる。 ○アンケートを実施してまとめ、結果をその後の園や所、学校の取り組みに活かす。		

【最終評価】

事務局	事業実績	同日公開参観日 公開施設：こども園・保育所・小学校・中学校 期日：(春)平成25年6月11日 (秋)平成25年10月11日 周知：町報、ホームページ、チラシ、ケーブル放送、町内放送						
	指標 (具体的な数値目標) の達成度	指標名／単位	H22	H23	H24	H25	H26	
		参観者総数／名	前980・後1162	前1077・後1127	前1527・後1315	前1520・後1409	前1589・後1186	
		合計／名	2142	2204	2842	2929	2775	
		うち、地域の方／名	-	-	後197	前292 後162	前201 後265	
		合計／名	-	-	-	454	466	
	事業費 (千円)	今年度予算額	0	今年度		差引	0	【説明】
		前年度決算額	0	決算見込額			0	
	成果・効果	参観者から「同日公開参観日は、いつ、どのクラスに行っても良いのでありがたい。」「給食に時間の様子も参観できてよい」などの声をいただいている。地域の子どもの成長を楽しみに毎回参観してくださる方もある。また、アンケートの結果を所・園・学校で共有し、取り組みに活かすことができた。						
	課題	さらに家庭・地域・学校の連携を進めるきっかけとする。						
改善方針	今後も、地域の人に学んだり、触れ合ったりする活動や学習を入れていく。							
評価	最終評価	【意見等】・よいことなので少しずつ工夫して子どもたちにも、地域の人にも呼びかけを続けてほしい。 ・保護者だけでなく地域の方にも学校の様子を見ていただくことはとてもよい。						
	C							

※ 評価確認事項

★評価の観点

① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	5
		担当課名	教育総務課
【評価事務事業：当初確認事項】			
事業名	自治会等地域での学習活動支援事業		今年のしごと チラシ等 P20
教育ビジョン	小項目	1 乳幼児が安心して、すくすく育つ家庭や地域	その他共通ビジョン項目 2-1
	具体的な目標	7 地域で育てる教育の充実	
事業の目的・概要	【目的】 「地域の子どもたちは地域で育てる」環境づくりの推進と児童生徒が計画的な生活習慣や自ら取り組む学習姿勢の定着を図りながら学び力の向上や地域への愛着心を身につける。 【概要】 自治会・PTAや地域の有志が、地域児童生徒を対象に、長期休業中、自治公民館等で行う学習活動に対し、消耗品等を支給し活動の支援をする。		
事業の効果	【効果】 ・児童生徒は、規則正しい生活習慣と自ら取り組む学習姿勢の定着が図れる。 ・地域住民等が、「地域の子どもたちを育てる」環境づくりが図れる。 ・児童生徒の地域への愛着心が芽生え将来の地域貢献が期待できる。 ・町は、事業アピールに取り組み、町内全体への波及を目指す。		
具体的な取り組み	・平成26年度：6団体支援計画 ・支援方法：運営に係る消耗品等の現物支援⇒上限1万円の現物支給支援(年間1回限り) ・対象：長期休業中(夏休み、冬休み等)に自治会・PTAや地域有志が、地域の小・中学校児童生徒を対象に行う学習活動 ・募集方法：自治会長・地域座談会・学校PTA意見交換・教育懇話会PR、ホームページ等掲載		

【最終評価】

事務局	事業実績	「完了済み」 ・夏休み中の取り組み 7自治会で実施								
	指標 (具体的な 数値目標) の達成度	指標名/単位		H25		H26				
		支援団体(自治会等)		3 ⇒ 4	6 ⇒ 7					
	成果・効果	事業費 (千円)	今年度予算額	60	今年度 前年度決算額	30	決算見込額	30	差引	30
		【説明】夏休み：7自治会：消耗品費 29,324円								
成果・効果	・町内63自治会中7自治会(対前年3自治会増)を支援し、地域学習活動の取り組みを推進した。 ・児童生徒の計画的な生活習慣の定着、自ら学習に取り組む姿勢、地域への愛着心を図った。 ・地域住民が地域の子どもたちを育てる環境づくりの推進を図った。									
課題	・自治会における事業取り組みの継続 ・63自治会への事業の広がり ・取り組み自治会の継続実施(昨年度実施→今年度未実施：2自治会)									
改善方針	●「内容を見直し・拡充して継続」 ・全町自治会への広がりをさらに推進 ・支援した自治会への事業継続の仕掛け									
評価	最終評価	C								
		【意見等】 ・この「自治会等地域での学習活動支援事業」と「サマースクール(夏休み小学生勉強会)」は翌年度は統合できる。 ・継続の自治会が減っていてどこが続けにくいのかを聴き多く取り組んでほしい。								

※ 評価確認事項

★評価の観点

① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	6
		担当課名	教育総務課
【評価事務事業：当初確認事項】			
事業名	サマースクール(夏休み小学生勉強会)		今年のしごと
教育ビジョン	小項目	2 地域での活動や地域人材の活用で、町の自然や歴史、文化、人を学び、町に愛着を持つ子ども	チラシ等
	具体的な目標	1 地域との連携を深め特色ある教育活動の推進	P20 その他共通ビジョン項目
事業の目的・概要	【目的】小学生が夏休みにおいて、学習習慣を持続させるとともに、講師のアドバイスや指導を受けることで学習内容や学習方法を学び、意欲を持って学習に望めるようにする。 【概要】小学生の夏休み期間中の勉強会を1日あたり1時間30分、計10日間実施する。		
事業の効果	【効果】・学習習慣を持続させる。 ・学習内容や学習方法を学び、意欲を持って学習に望める。 ・地域の人と交流することができる。		
具体的な取り組み	対象：小学校児童 期日：7月24日～25日、7月29日～8月1日、8月5日～8日 計10日間 午前10時～11時30分 場所：北条地区は中央公民館講堂、大栄地区は図書館研修室、大栄農村環境改善センター青年研修室 講師：教職経験者・大学生、高校生ボランティア 内容：各児童が学習教材を準備して学習をすすめ、質問があれば講師に訊く。 講師は、児童の質問に答えたり、様子を見て、適宜、助言や指導をしたりする。		

【最終評価】

事務局	事業実績	・実施日数 9日(10日を予定していたが、8月6日は大雨のため中止) ・指導者12人の内1人は高校生 ・参加希望者全員が参加できる会場を確保して実施 「完了済み」					
	指標 (具体的な数値目標)の達成度	指標名/単位	H24	H25	H26		
		参加児童数/延べ 人	191	420	1003		
		参加講師数/人	9	11	12		
	事業費 (千円)	今年度予算額	140	今年度 決算見込額	59	差引	81
		前年度決算額	71				12
	成果・効果	・学習習慣を持続させることに役立った。 ・地域の人と交流することができた。 ・参加希望者全員を受け入れることができた。					
課題	特になし						
改善方針	●事業内容を見直し事業実施を検討						
評価	最終評価	【意見等】この「サマースクール(夏休み小学生勉強会)」と「自治会等地域での学習活動支援事業」は翌年度は統合できる。 ・希望者全員が受け入れられたことはよかったが、指導者と会場の確保が難しくなるのでがんばってほしい。					
	B						

※ 評価確認事項

★評価の観点
① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準	
A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	7
		担当課名	生涯学習課
【評価事務事業：当初確認事項】		今年のごと	チラシ等
事業名		P26	
教育ビジョン	小項目	2 地域での活動や地域人材の活用で、町の自然や歴史、文化、人を学び、町に愛着を持つ子ども	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	5 地域文化の鑑賞機会の提供	6-5
事業の目的・概要	【目的】 本町に根付く質の高い文化・歴史を知り、身近に感じ、触れることのできる機会の提供（町への興味・関心を高める。心の豊かさを培う。愛着心や誇りにつながる） 【概要】 企画展示：年間6回、常設展：3回入れ替え 関連施設による展示及び収蔵資料を活用した様々な取組み		
事業の効果	【効果】 住民が文化的財産を知り、身近に感じ、触れることにより、自分の住む町に興味・関心を持ち、質が高く心豊かな生活を送ることに資する。 学校の授業等で利用することにより、郷土の歴史、文化、芸術に関する理解を深める。		
具体的な取り組み	企画展示：郷土の作家たち、北條土人形展、砂丘開拓のあゆみ等 常設展：生田和孝陶芸作品ほか 学校等の「郷土の学習」支援、見学受け入れ、資料貸出 図書館を会場とした民具資料常設展		

【最終評価】

事務局	事業実績	入館者数・資料活用回数は2月末現在 常設展入れ替え3回 企画展開催：郷土の作家たち、鳥取県立博物館移動美術館、北條土人形展、砂丘開拓のあゆみ、北栄町美術展受賞作品展、北栄町北条歴史民俗資料館収蔵品展						
	指標 (具体的な数値目標)の達成度	指標名／単位	H23	H24	H25	H26	H26計画値	
		入館者数／人	3,082	2,054	2,092	2,436	2,100	
		資料活用／回				6	3	
	事業費 (千円)	今年度予算額	1,562	今年度	1,500	差引	62	【説明】
		前年度決算額	1,090	決算見込額			1,090	
	成果・効果	展示事業や館の活用について、入館者数は増加している。 資料活用については、主に小中学校を対象とした生活道具や埋蔵文化財などの見学・貸し出しによって郷土の学習を深めた。						
	課題	中長期的な視野による展示計画の立案。						
	改善方針	●継続実施 展示事業の基準、計画の明確化を進めている。						
評価	最終評価	【意見等】・せっかくの展示なので入館者の数を増やすことを目標にしてほしい。 ・TCC活用による住民への広報がよい。						
	C							

※ 評価確認事項

★評価の観点

① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

【評価事務事業：当初確認事項】

			整理番号	8	
			担当課名	生涯学習課	
【評価事務事業：当初確認事項】					
事業名	巡回展示館の実施			今年のしごと	チラシ等
				P26	
教育ビジョン	小項目	2 地域での活動や地域人材の活用で、町の自然や歴史、文化、人を学び、町に愛着を持つ子ども			その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	5 地域文化の鑑賞機会の提供			
事業の目的・概要		【目的】 常時、資料を展示している施設の入館者以外を対象とした、質の高い文化・歴史を身近に感じ、触れることのできる機会の提供 【概要】 図書館等を会場とした歴史民俗資料館収蔵資料の展示			
事業の効果		【効果】 住民が文化的財産を身近に感じ、触れることにより、自分の住む町に興味・関心を持ち、質が高く心豊かな生活を送ることに資する。 学校の授業等で利用することにより、郷土の歴史、文化、芸術に関する理解を深める。 歴史民俗資料館等の利用者以外に対する鑑賞機会の提供。			
具体的な取り組み		図書館郷土史入門講座での関連資料展示 民間施設等を会場とした歴史民俗資料館の収蔵資料展示			

【最終評価】

事務局	事業実績	図書館講座との連携									
	指標 (具体的な数値目標)の達成度	指標名／単位				H26		H26計画値			
		巡回展示館開催／回				3		5			
	成果・効果	事業費 (千円)	今年度予算額	25	今年度 前年度決算額	15	決算見込額	0	差引	25	【説明】
										15	
	課題	魅力ある展示内容、会場の選定、事業そのものの幅広い広報 人数の把握はできない。									
	改善方針	●名称を変更して継続実施 展示資料の精選に努める。図書館講座の内容との連携 巡回展示場所の検証、検討を改めて行う(巡回展示→出張展示・館外展示)									
評価	最終評価	【意見等】・事業名称が「巡回展示～」となっているが、図書館のみで巡回になっていない。 ・たくさんの人に足を運んでほしいのもっと工夫が必要である。									
	D										

※ 評価確認事項

★評価の観点

① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

A	＝目標を大幅に達成できた	D	＝目標を一部達成できなかった
B	＝目標をいくらか超えて達成できた	E	＝ほぼ全く達成できなかった
C	＝目標どおり達成できた		

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	9
		担当課名	教育総務課
【評価事務事業：当初確認事項】			
事業名	学力向上週間の取り組み		今年のしごと チラシ等 P20
教育ビジョン	小項目	2 地域での活動や地域人材の活用で、町の自然や歴史、文化、人を学び、町に愛着を持つ子ども	その他共通ビジョン項目 3-5
	具体的な目標	6 地域の教育力の向上を目指す取り組み	4-3
事業の目的・概要	【目的】 子どもたちの基礎学力の定着と自ら進んで学び力を高めることを目標に、家庭・地域・学校・行政が役割に応じた取り組みを行い、町全体で子どもたちの学び力の向上を図る気運を高める。 【概要】 毎年、各学期中の指定した1週間を「学ぶ力を向上させる週間」と位置づけ、教委が啓発アピールなど行い町全体の気運を高め、家庭等が役割に応じたアクションを起こし子どもたちの学び力を向上させる。		
事業の効果	【効果】 この「週間」のアクションを子どもたちの家庭学習や規則正しい生活の「習慣」の定着に結び付けるきっかけとする。 【家庭】 子どもたちと会話し、計画的な生活時間の使い方と家庭学習の時間の確保をする。家族内の役割を分担する。 【地域】 地域の子どもたちとのコミュニケーションや地域の素材・人材等を活用したさまざまな経験・学びをさせる。 【学校】 基礎学力の定着や活用力の向上を図る学習や家庭学習の手引きを活用した家庭での学習を支援する。 【教委】 広報・チラシ・HPで啓発アピールを実施し町全体で子どもたちの学び力を向上させる気運を高める。		
具体的な取り組み	★「学び力向上アクション週間」の実施 実施期間 第1回(1学期) 6月20日(金)～26日(木) 第2回(2学期) 11月21日(金)～27日(木) 第3回(3学期) 2月6日(金)～12日(木) ・「アクション週間」年間取り組みの周知 ⇒ 町報・町HP掲載、自治会・PTA・学校への取り組み通知 ・「アクション週間」各回取り組み前の周知 ⇒ 啓発チラシ配布、町放送実施 ・「アクション週間」の学校での取り組み確認 ⇒ 学校訪問と報告書確認		

【最終評価】

事務局	事業実績	・第1回アクション週間：6月20日(金)～6月26日(木) ・第2回アクション週間：11月21日(金)～11月27日(木) (周知)町ホームページ、町報「北栄」6・12月号、町全戸放送、自治会長会 PTA部落長通知、学校だより、保護者用啓発チラシ ・第3回アクション週間：2月6日(金)～2月12日(木) ※第1・2回と同様に啓発周知						
	指標 (具体的な数値目標) の達成度	指標名／単位		H26				
		学校取り組み	4校					
		各保護者家庭への周知	全保護者					
		地域住民	全住民					
		事業費 (千円)	今年度予算額 前年度決算額	160 0	今年度 決算見込額	160	差引	0 0
成果・効果	・家庭での会話による家庭学習の取り組み、計画的な生活習慣の定着、家庭での役割分担の意識付け ・地域での通学時や行事等の際のコミュニケーションにより体験したり学んだり、地域での安心を感じる ・学校でのテスト前学習や家庭との連携による家庭学習の定着やメディアの使い方等を指導							
課題	・取組への効果の確認方法 ・家庭・地域対象の社会教育との取り組みの重複							
改善方針	【内容を見直して継続】 ・学校教育における「家庭学習の習慣化」、「家庭での読書推進」、「メディアとの上手な付き合い方」などを目的とした効率的な事業展開への整理							
評価	最終評価	D						
	【意見等】	活動の主体としての「地域」は誰を指しているのか不明確なのでそこでの活動が進まないのではないかと ・内容を見直し継続をしてほしい。子どもにひとつでも自信を持たせる。 ・小学校高学年より学力向上を目指したい。中学でつまづく生徒を多く感じている。						

※ 評価確認事項

★評価の観点
① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準	
A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	11
		担当課名	教育総務課
【評価事務事業：当初確認事項】			
事業名	レインボープラン(大栄小・中・中央育英高校)		今年のごと
教育ビジョン	小項目	3 仲よく遊び、学び、他人の気持ちを想いやる心根を持つ子ども	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	1 保・幼・小・中の連携の充実	
事業の目的・概要	【目的】 同じ丘に大栄小学校・大栄中学校・鳥取中央育英高等学校があるという立地環境を活かし、小中高等学校が連携する中で、一人ひとりの児童生徒の発達を上級学校へと繋げると共に、進路意識の向上及び教職員の他校種理解を深めることを通して、学校が抱える共通の諸課題(学校不適応への対応、教科指導の一貫性、人権教育・特別支援教育の充実等)の解決策を見出す。 【概要】 ・児童生徒の交流 ・教職員の交流 【効果】 ・児童生徒の進路意識の向上につながる。 ・教職員の他校種理解を深めることができる。		
事業の効果			
具体的な取り組み	・児童生徒の交流(吹奏楽、水泳等) ・大栄中学校3年生が鳥取中央育英高校で体験授業を実施 ・互いの授業研究会への参加		

【最終評価】

事務局	事業実績	・小学生 ボードクライミング・水球交流(高校) ・小学校プール開き 高校生の模範水泳 ・中学生の読み聞かせ(小学校) ・授業研究会 「完了済み」					
	指標 (具体的な 数値目標) の達成度	指標名／単位		H25	H26		
		児童生徒の交流/回		8	18		
		大栄中学校2年生の鳥取中央育英高校における体験授業/回		1	1		
		互いの授業研究会への参加/回		3	3		
	事業費 (千円)	今年度予算額	0	今年度		差引	0【説明】
		前年度決算額	0	決算見込額			0
	成果・効果	・児童生徒の進路意識の向上につながる体験ができた。 ・教職員の他校種理解を深めることができた。					
	課題	特になし					
改善方針	●引き続き継続						
評価	最終評価	【意見等】・継続を望む。					
	C						

※ 評価確認事項

★評価の観点

① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

整理番号

12

【評価事務事業：当初確認事項】

担当課名

教育総務課

事業名	ドリームプロジェクトX(北条小・中)		今年のしごと	チラシ等
教育ビジョン	小項目	3 仲よく遊び、学び、他人の気持ちを思いやる心根を持つ子ども	その他共通ビジョン項目	
	具体的な目標	1 保・幼・小・中の連携の充実		
事業の目的・概要	【目的】 9年間を見通した連続性のある小中連携教育の推進 【概要】 学力向上、交流活動、小中の接続の3つのプロジェクトを中心に活動を推進する。			
事業の効果	【効果】 教育目標の一貫性、子どもの理解の一貫性、学習指導の継続性、学習内容の系統性を視点として、独自性と連続性を踏まえた9年間の一貫した教育の推進につながる。			
具体的な取り組み	○プロジェクトまなび(学力向上) ・小中合同授業研究会 ・小中合同教科・領域部会 ○プロジェクトきずな(交流活動) ・交流活動、行事交流 ○プロジェクトくらし(小中の接続) ・ノーメディアチャレンジの実施			

【最終評価】

事務局	事業実績	○プロジェクトまなび(学力向上) ・小中合同授業研究会 ・小中合同教科・領域部会 ○プロジェクトきずな(交流活動) ・交流活動、行事交流 ○プロジェクトくらし(小中の接続) ・ノーメディアチャレンジの実施 「完了済み」					
	指標 (具体的な数値目標) の達成度	指標名／単位		H25	H26		
		小中合同授業研究会の実施/回		2	2		
		小中合同教科・領域部会の実施/回		2	2		
		交流活動、行事交流の実施/回		9	16		
		ノーメディアチャレンジの実施/回		2	2		
	事業費 (千円)	今年度予算額	0	今年度		0	【説明】
		前年度決算額	0	決算見込額		0	
	成果・効果	教育目標の一貫性、子どもの理解の一貫性、学習指導の継続性、学習内容の系統性を視点として、独自性と連続性を踏まえた9年間の一貫した教育の推進を図った。					
	課題	特になし					
	改善方針	●引き続き継続					
評価	最終評価	【意見等】・レインボーのように中・高の交流があるとよい。					
	C						

※ 評価確認事項

★評価の観点

- ① 継続・単年
- ② 対象者、参加者
- ③ 参加者の満足度
- ④ 予算措置
- ⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

- | | |
|---------------------|-------------------|
| A = 目標を大幅に達成できた | D = 目標を一部達成できなかった |
| B = 目標をいくつか超えて達成できた | E = ほぼ全く達成できなかった |
| C = 目標どおり達成できた | |

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	14
		担当課名	教育総務課
【評価事務事業：当初確認事項】			
事業名	いじめに関する調査		今年のしごと チラシ等 P20
教育ビジョン	小項目	3 仲よく遊び、学び、他人の気持ちを想いやる心根を持つ子ども	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	3 いじめ・不登校問題に対する学校の危機管理体制の充実	
事業の目的・概要	【目的】 いじめの実態を把握し、今後のいじめの未然防止、早期発見・早期対応等の指導に役立てる。 【概要】 調査方法 ・年2回 ・家に持ち帰って記入(小1、2は除く) ・無記名 ・同じ様式の調査票		
事業の効果	【効果】 ・いじめの実態を把握することで、今後のいじめの未然防止、早期発見・早期対応等の指導に役立てることができる。		
具体的な取り組み	実施時期:5月下旬、11月上旬 対象:全児童生徒 方法:小学校1,2年 学校で調査用紙に記入(無記名)、提出 小学校3年~中学校3年 調査用紙を持ち帰り、家で記入(無記名)、用紙を封筒に入れて担任に提出 活用:調査結果を全職員で把握し、今後のいじめの未然防止、早期発見・早期対応等を図る。		

【最終評価】

事務局	事業実績	5月と11月に調査を実施し、いじめの早期発見、予防に役立てた。 「完了済み」						
	指標 (具体的な数値目標) の達成度	指標名/単位	H25	H26				
		調査の実施/回	2	2				
		全職員で結果の把握/回	2	2				
		事業費 (千円)	今年度予算額 前年度決算額	0 0	今年度 決算見込額		差引	0【説明】 0
成果・効果	・いじめの実態を把握することで、今後のいじめの未然防止、早期発見・早期対応等の指導に役立てた。							
課題	・記名で実施していないため教員が個別具体を把握しづらい。							
改善方針	●引き続き継続 ・必要に応じて記名調査を実施する。 ・他の方法でも実態把握を実施する。(観察、教育相談、生活記録ノート)							
評価	最終評価	【意見等】・子どもたちの行動が変わってくればよい取り組みになる。 ・保護者の意識が低い。						
	D							

※ 評価確認事項

★評価の観点

① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

整理番号	15
担当課名	教育総務課

【評価事務事業：当初確認事項】

事業名	児童生徒交流事業(滋賀県湖南市との交流)		今年のごと	チラシ等
教育ビジョン	小項目	3 仲よく遊び、学び、他人の気持ちを想いやる心根を持つ子ども	P20	その他共通ビジョン項目 2-1
	具体的な目標	3 いじめ・不登校問題に対する学校の危機管理体制の充実		
事業の目的・概要	【目的】	友好交流協定を締結している滋賀県湖南市との学校レベルでの相互交流を「第4回湖南市いじめをなくそうサミット」を通じて行い、児童生徒の豊かな育ち・学びに活かす。		
	【概要】	湖南市が主催する「第4回いじめをなくそうサミット」に参加し、ワークショップ・アピール文作成・全体発表を通じて交流する。交流の結果を学校に持ち帰り、校内発表を行うなど情報共有を行う。		
事業の効果	【効果】	・児童生徒及び教員が、いじめをテーマとした「話し合い-まとめ-発表」による交流体験を行い、いじめに向き合うとともに学校内でのいじめ対策活動に活かすことができる。 ・児童生徒は、都市部の児童生徒との交流を通じて社会性の育成ができる。 ・教員は、学校における学習活動や指導に役立てることができる。 ・町は、湖南市との友好交流の幅を広げ、相互連携や子どもたちの育ちに還元できる。		
具体的な取り組み	・実施日：平成26年8月19日(火曜日)午前、 行程：8月18日(月曜日)～19日(火曜日)1泊2日 ・参加者：北条小 6学年児童4名、教員1名、大栄小 6学年児童4名、教員1名 北条中 3学年生徒2名、教員1名、大栄中 3学年生徒2名、教員1名 教育委員会 職員3名 ・内容：テーマ「いじめ」 湖南市指導主事講演－ワークショップ－アピール文作成－全体発表－各学校へ持ち帰り			

【最終評価】

事務局

事業 実績	・平成26年8月18日(月)～19日(火):滋賀県湖南市訪問 ・平成26年8月19日(火):「第4回湖南市いじめをなくそうサミット」に児童生徒・教員が参加・交流 ・各学校でアピール文等の発表 ・町じんけんフェスタで発表 北条小 「完了済み」												
	指標 (具体的な 数値目標) の達成度	指標名／単位		H25		H26							
		参加者児童生徒		10		12							
		参加者教員		4		4							
		交流体験発表(校内)		小 済		小 済							
				中 済		中 済							
	成果・ 効果	事業費 (千円)	今年度予算額	453		今年度 決算見込額	432		差引	21【説明】参加費用弁償236千円、バス借上16千円、保険9千円、消耗品19千円			
			前年度決算額	409					-23				
	課題	・「いじめ」への認識を深め、「いじめ」をなくするための意見交換、決意・願いをまとめて発表し、湖南市の関係者を含め情報を共有した。また、学校に持ち帰り、全校発表を通じていじめ撲滅の情報共有を図った。 ・参加した町内小・中学校児童生徒・教員の相互交流が図れた。 ・町民対象の「北条町じんけんフェスタ」において、北条小参加者が活動状況を報告し、町民と情報共有した。											
		・交流が「サミット」の分科会内の参加児童と限定的であった。 ・湖南市と町内の児童生徒とが学校教育をテーマに継続して交流していくことが可能かどうか。											
改善 方針	●内容を変更して実施 ・生涯学習など様々なテーマにより児童生徒の交流を継続する。 ・平成27年度は第1回北条町いじめをなくそうサミットを実施する。												
評価	最終評価	【意見等】・本年度までの2年間の交流経験を踏まえて町内での交流の構想の明確化が必要である。 ・継続を望む。											
	C												

※ 評価確認事項

★評価の観点

- ① 継続・単年
- ② 対象者、参加者
- ③ 参加者の満足度
- ④ 予算措置
- ⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

A = 目標を大幅に達成できた D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

【評価事務事業：当初確認事項】

		整理番号	16
		担当課名	生涯学習課
事業名	青少年育成北栄町民会議交付金事業(あいさつ運動の推進・啓発看板の作成)		今年のごと P25
教育ビジョン	小項目	3 仲よく遊び、学び、他人の気持ちを思いやる心根を持つ子ども	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	6 家庭教育の充実と青少年の健全育成	1-8 2-7
事業の目的・概要	【目的】 青少年問題の持つ重要性を認識し、広く町民の総意と自主活動を結集し、次代を担う青少年の健全な育成を図る。 【概要】 各団体の連携、情報の共有化。社会環境の浄化活動。青少年の健全育成を図るための広報、啓発活動。		
事業の効果	【効果】 各団体の連携、情報の共有化、社会環境の浄化活動により、大人や親が青少年を見守る環境を整え、地域ぐるみで青少年の健全育成を図る。 地域社会全体で青少年健全育成に関わる雰囲気醸成。		
具体的な取り組み	・あいさつ運動(年2回) ・あいさつ通りモデル自治会募集 ・あいさつ運動推進事業所募集 ・高校生マナーアップさわやか運動(年2回) ・青少年を育む標語・図案募集事業(6校)		

【最終評価】

事務局	事業実績	・あいさつ運動 ・あいさつ通りモデル自治会募集 ・あいさつ運動推進事業所募集 ・高校生マナーアップさわやか運動(年2回) ・青少年を育む標語・図案募集事業(看板設置6か所)					
	指標 (具体的な数値目標)の達成度	指標名/単位	H23	H24	H25	H26	H26計画値
		あいさつ通りモデル自治会新規認定	3	1	6	1	5
		あいさつ運動推進事業所認定				25	15
	成果・効果	事業費(千円)	今年度予算額 966	今年度 決算見込額 966	差引	0	【説明】青少年育成北栄町民会議交付金の総額
			前年度決算額 405			405	
	課題	・自治会の新規参加が停滞 ・子どもと地域を結びつける取り組みに更なる工夫が必要 ・町全体への更なる浸透					
	改善方針	●継続実施(青少年を育む標語・図案募集事業は完了) 啓発、広報活動を工夫し、住民・自治会にとって、あいさつ運動が身近な取り組みだと感じられることを目指す。					
	評価	最終評価	【意見等】・町全体への更なる浸透を望む。				
		C					

※ 評価確認事項

★評価の観点

① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	28
		担当課名	教育総務課
【評価事務事業：当初確認事項】			
事業名	ケータイ・インターネット講演会		今年のごと チラシ等
教育ビジョン	小項目	3 仲よく遊び、学び、他人の気持ちを思いやる心根を持つ子ども	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	6 家庭教育の充実と青少年の健全育成	
事業の目的・概要	【目的】 保護者が、子どもをとりまくケータイ・インターネット環境の現状を知り、家庭教育の充実と青少年の健全育成を図る。 【概要】 町内の所・園・小・中学校の保護者が、鳥取県ケータイ・インターネット教育推進員の講演を聞く。		
事業の効果	【効果】 目まぐるしく変化するケータイ・インターネット環境において、子どもがしていることや置かれている状況を保護者が知らないことが多い。そこで、保護者がその現状を知り、保護者がすべきことやできることを実施することにつなげる。		
具体的な取り組み	講演会の実施（各1時間30分） ・大栄中学校 5月16日（金）15：00～ ・大栄小学校 6月10日（火）15：00～ ・大誠こども園 7月3日（木）10：00～ ・北条こども園 10月16日（木）10：00～ ・北条中学校 10月15日（水）19：30～ ・由良こども園 10月16日（木）19：00～ ・北条小学校 11月7日（木）19：30～		

【最終評価】

事務局	事業実績	・大栄中学校 5月16日（金）15：00～ ・大栄小学校 6月10日（火）15：00～ ・大誠こども園 7月3日（木）10：00～ ・北条こども園 7月16日（水）10：00～ ・北条中学校 10月15日（水）19：30～ ・由良こども園 10月16日（木）19：00～ （大谷保育所） ・北条小学校 11月7日（金）19：30～ 「完了済み」					
	指標 （具体的な 数値目標） の達成度	指標名／単位	H26				
		講演会の実施	7				
		事業費 （千円）	今年度予算額 前年度決算額	今年度 決算見込額	差引	0 0	【説明】
	成果・効果	・子どもたちをとりまくインターネット環境について、各施設の保護者に対し、子どもの年齢の応じた内容の講演を実施した。子どもたちの状況や親がすべきことを知り、実践へとつなげていける内容であった。					
課題	・参加者が限定されている。						
改善方針	●内容を変更して継続 ・全保護者が集まる新入生説明会で啓発を図る。（チラシ配布）						
評価	最終評価	【意見等】 啓発活動の前に、最初にすべきは必ずすべき具体的な技術対策をさせ、その後モラルや知識等の順番が重要である。 ・多数の保護者が関心がある。数が出ているので継続が必要。					
	D						

※ 評価確認事項

★評価の観点

① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

整理番号

17

【評価事務事業：当初確認事項】

担当課名

教育総務課

事業名	大栄小「まなびの教室」の設置		今年のしごと	チラシ等
教育ビジョン	小項目	4 子どもが意欲を持っていきいき学び、基礎・基本を身につける学校教育	P22	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	5 個に応じた指導の育成		
事業の目的・概要	【目的】 発達障がいのある児童、またはその疑いのある児童の学習や生活におけるつまづきや困り感を軽減するために、一人一人に合わせた指導を行う。			
	【概要】 大栄小学校に、通級指導教員を1名置く。 通常は、在籍している学級で学習し、週に1～2回程度「まなびの教室」に出かけて学習する。			
事業の効果	【効果】 自分に合った学び方や生活の仕方、友達とのかかわり方を学ぶことによって、自分に自信が付き、楽しく学校生活を送ることができる。			
具体的な取り組み	通級指導担当教員は、次のことを行う。 ・一人一人の児童にあわせた指導。 ・在籍学級担任と連携。(在籍学級での様子の観察及び在籍学級における配慮への助言)。 ・保護者への支援。 北栄町教育委員会は、通級指導委員会を開催し、入退級の審査や通級指導教室の円滑な運営を図るための事例検討を行う。			

【最終評価】

事務局

事業実績	開設：平成25年6月1日 対象：町内小学校の津城学級に在籍する発達障がいのある、またはその疑いがある児童 内容：障がいによる学習上または生活上の困難の改善・克服を目的として週1～2時間程度の指導。保護者への支援 指導教員1名配置									
指標 (具体的な数値目標)の達成度	指標名／単位		H25		H26					
	入級対象児童数/名		20		25					
	うち 北条小		4		5					
	大栄小		16		20					
事業費 (千円)	今年度予算額		今年度				差引		【説明】	
	前年度決算額		決算見込額							
成果・効果	一人一人に合わせた指導を行うことによって、子どもたちは「できた」喜びを持ち、学び方を身に付けてきている。タブレットを活用することにより、集中力や学習意欲が高まった例もある。通級指導委員会を定期的に開催し、指導・支援の必要な児童の入級の手続きがスムーズにできた。									
課題	在籍学級の担任との連携をより図っていくことが課題である。									
改善方針	通級担当教員が在籍学級の様子を参観するための時間を確保する、在籍学級担任が通級の様子を参観する機会を持つ、通級指導担当教員と在籍校担任の話し合いの会を設定するなどの取り組みを進める。									
評価	最終評価	【意見等】・継続を望む。 ・子どもたちの可能性を引き出してほしい。								
	C									

※ 評価確認事項

★評価の観点

① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	19
		担当課名	教育総務課
事業名	特別支援教育補佐員の配置		今年のしごと
			テラシ等
教育ビジョン	小項目	4 子どもが意欲を持っていきいき学び、基礎・基本を身につける学校教育	P20 無
	具体的な目標	8 特別支援教育の充実	その他共通ビジョン項目 4-5
事業の目的・概要	【目的】 個別に配慮を要する児童生徒の支援に加え、平成26年度から命にかかわる児童への学校生活において十分な配慮を行うとともに各児童の特性に合った学習指導を行う。 【概要】 北条小学校に2名、大栄小学校及び各中学校に1名の特別支援教育補佐員を配置し、個別に配慮を要する児童生徒の学校生活における支援を行う。		
事業の効果	【効果】 ・通常学級に在籍する児童生徒を個別に支援することで困り感を解消できる。 ・病気や障がいにより学校生活に個別の配慮が必要な児童に対し個別に支援することで困り感を解消する。(北条小2人、大栄小2人) ・該当児童生徒の特性にあった学習指導を行い、子どもたちの豊かな育ち・学びの推進を図る。		
具体的な取り組み	・北条小学校 2名、大栄小学校・各中学校 1名配置 ※ 特別支援教育補佐員(臨時職員):週5日 7時間45分勤務 ・通常学級に在籍する個別に配慮を要する児童生徒への学習等の支援を行い、困り感の解消をする。 ・通常学級全体の学級経営をよりきめ細かく対応することで児童生徒の基礎学力の向上を図る。 ・病気や障がいにより個別の支援が必要な児童に対し学校生活の支援をすることで、個々の学習や生活習慣、社会性を習得する。		

【最終評価】

事務局	事業実績	・特別支援教育補佐員を配置(北条小2名、大栄小1名、北条中1名、大栄中1名) ⇒病気等個別の配慮が必要な児童生徒への支援や学習や生活に困り感のある児童への支援を実施						
	指標 (具体的な数値目標) の達成度	指標名/単位	H23	H24	H25			
		認定就学者数(北条小)	0	0	1			
		病気等配慮必要者数(北条小)	0	0	1			
		病気等配慮必要者数(大栄小)	0	1	2			
		事業費 (千円)	今年度予算額 7,960	今年度 前年度決算額 11,540	決算見込額	差引	7,960	【説明】賃金5名分 11,540
成果・効果	・病気等個別の配慮が必要な児童へ支援を行い困り感の軽減を図る。 ・通常学級に在籍する学習や生活に困り感のある児童生徒を担当教諭等と連携しながら困り感の軽減を図る。							
課題	・昨今「インクルーシブ教育」が推進され、障がいの有無にかかわらず地域の学校で学ぶ児童生徒に対する受入体制(人的配置、施設整備)の整備が必要となる。							
改善方針	【継続】 ・障がいや病気など個別に配慮を要する児童生徒は、特別支援学級に限らず、通常学級にも存在しているため、個別児童生徒に対する困り感の解消、集団学習に対する児童生徒の学習保障の観点から継続する。							
評価	最終評価	【意見等】・命にかかわる(例、重度のアレルギーや心臓疾患等)の場合医療・看護スタッフとの連携体制が必要不可欠であると思われる。						
	C	・必要である。継続を望む。						

※ 評価確認事項

★評価の観点

① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

整理番号

20

【評価事務事業：当初確認事項】

担当課名

生涯学習課

事業名		社会教育推進事業(生涯学習出前講座提供事業)		今年のごと	チラシ等
				P25	有 18
教育ビジョン	小項目	5 人権を尊重する気運が社会に根付き、豊かな人間性や社会性を身につけた人があふれる町			その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	2 生涯学習の推進			
事業の目的・概要		【目的】 地域や団体の主体的な学習を支援し、学習意欲の向上を図る。 【概要】 生涯学習出前講座の実施			
事業の効果		【効果】 自治会、住民団体、事業所等の学習活動をきめ細かく支援することで学習意欲が高まる。 自発的な活動が、住民主体の暮らしやすく活力のある地域づくりにつながる。			
具体的な取り組み		年間を通じた生涯学習出前講座の提供(事業所・高校へのPRを実施) メニュー76講座のほか、要望に応じた講座の開設			

【最終評価】

事務局	事業実績	H27. 2. 28現在 ・講座メニュー数75(要望に応じて開設したものを含む) ・生涯学習出前講座 実施済み19メニュー 47回 ・事業所での実施 1事業所					
	指標 (具体的な数値目標) の達成度	指標名/単位	H23	H24	H25	H26	H26計画値
		実施回数/回	38	36	38	47	45
		生涯学習課開設講座/メニュー数/開催回				18 / 18	18 / 25
		事業費 (千円)	今年度予算額 68	今年度 0	決算見込額 35	差引 33	【説明】 0
	成果・効果	自治会長会等でのチラシ配布・周知等により定着してきている。 各自治会、いきいきサロン、老人クラブからの申し込みが多い。					
	課題	ニーズの把握とメニューの充実					
評価	改善方針	●継続実施 講座実施後の報告書においてニーズを把握し、メニュー検討に活用する。 学校・団体・事業所等にも事務負担軽減のため統一様式で広げていく ニーズへの対応だけでなく、行政として住民に学んで欲しいメニューも提供する方針を各課に伝えて、メニューを作成する。					
	最終評価	【意見等】・町教育委員会として住民に学んで欲しいことと、住民自身が学びたいことの バランスを常に配慮すべきであろう。 ・学習の場として重要である。					
評価		C					

※ 評価確認事項

★評価の観点

- ① 継続・単年
- ② 対象者、参加者
- ③ 参加者の満足度
- ④ 予算措置
- ⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

- | | |
|---------------------|-------------------|
| A = 目標を大幅に達成できた | D = 目標を一部達成できなかった |
| B = 目標をいくらか超えて達成できた | E = ほぼ全く達成できなかった |
| C = 目標どおり達成できた | |

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	21
		担当課名	生涯学習課
【評価事務事業：当初確認事項】			
事業名	人権を学ぶ会の開催		今年のしごと・チラシ等 P29
教育ビジョン	小項目	5 人権を尊重する気運が社会に根付き、豊かな人間性や社会性を身につけた人があふれる町	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	3 人権教育の推進	
事業の目的・概要	【目的】 町民の人権意識を高めるとともに、正しいことを知り、差別や偏見などを自らの問題として捉え、積極的に正していこうと行動できる人を育てる。 【概要】 さまざまな人権問題のなかから、全63自治会が学習テーマを決定し、自主的、主体的な取り組みとして懇談会等を実施する。また、教材用ビデオを購入。		
事業の効果	【効果】 人権について知り、気づき、学ぶことにより、一人ひとりの人権が尊重され、すべての人が暮らしやすい地域や自治会、家庭づくりを推進することができる。		
具体的な取り組み	自治会単位で人権に関する学習会を開く。さまざま人権課題や学習方法に対応出来るよう、学習メニュー案を複数提示するとともに、自治会独自の学習テーマにも柔軟に対応して、自治会が主体となって行うことを周知するなかで、自らの問題としてより多くの方に参加していただく。 また、平成25年度につづき、より参加しやすい学習形態として、ビデオ視聴等のあとに懇談を行わない学習パターンを設ける。 9月～11月に各自治会単位で開催される人権を学ぶ会に、人権教育推進協力員、行政職員、小中学校教職員及び教育委員会職員が推進員等として参加し、懇談等で助言・指導・報告などを行う。		

【最終評価】

事務局	事業実績	9月から11月にかけて全自治会で実施済み。							
	指標 (具体的な数値目標)の達成度	指標名／単位		H23	H24	H25	H26	H27	H28
		実施自治会数(計画)		63	63	63	63 (63)		
		参加者数(実績)		1,080	1,008	1,074	1,053 (1,100)		
	成果・効果	事業費 (千円)	今年度予算額	717	今年度 決算見込額	560	差引	157	【説明】 訪問者報償費
		前年度決算額	555				-5		
課題	教材ビデオ視聴等により、自分の中に思い込みや偏見がないか、何気なく発する言葉が人の心を傷つけていないかなど、意識の振り返りや話し合いを通して人権意識を高め、人権が尊重された住みよいまちづくりを推進することができた。								
改善方針	参加しやすい会にするため、懇談の有無について各自治会に選択実施してもらっているが、懇談を行わない自治会が昨年より増えたにもかかわらず参加者が減少した(一部外因あり)。懇談を行わない学習に対する物足りなさ等を感じる参加者もあり、研修を深めていくため有効な学習方法を検討していく必要がある。								
評価	最終評価	【意見等】・実施回数・参加者数の次に、気づき・定着の確認が必要と思われる。 ・学習の場として継続をしてほしい。							
	C								

※ 評価確認事項

★評価の観点

① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

整理番号

22

【評価事務事業：当初確認事項】

担当課名

生涯学習課

事業名	人権教育講演会の開催		今年のしごと	チラシ等
教育ビジョン	小項目	5 人権を尊重する気運が社会に根付き、豊かな人間性や社会性を身につけた人があふれる町	P27	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	4 人権尊重まちづくりの推進		
事業の目的・概要	【目的】 人権に関する講演会を開催し、人権課題に対する理解を深め、人権意識の高揚を図る。			
	【概要】 外部講師により人権に関する講演会を開催する。			
事業の効果	【効果】 知らないことを正しく知り、学びにつなげることの大切さを認識するとともに、さまざまな人権問題に対する認識が深まり、人権意識の高揚が図れる。			
具体的な取り組み	鳥取県部落解放月間中となる7月17日(木)中旬の夜、大栄農村環境改善センターで、「発達障がい」に関する内容の講演会を開催する。対象は一般町民。300人目標。 講師：大橋広宣さん（フリーライター、ディレクター） 演題：「LDの挑戦！ 算数0点から新聞記者に」～苦手は得意でカバー 個性を伸ばして生きる～（仮題） また、会場内にさまざまな人権問題に関するパネルを展示し、認識を広げていただく。			

【最終評価】

事務局	事業実績	7月17日(木)、大栄農村環境改善センターで、大橋広宣さんを講師に、「LDの挑戦！ 算数0点から新聞記者に」～苦手は得意でカバー 個性を伸ばして生きる～と題して、自らの学習障がいを、家族、周囲のかかわりを通し、人権の視点で講演していただいた。参加者319人。						
	指標 (具体的な数値目標) の達成度	指標名／単位	H23	H24	H25	H26	H27	H28
		参加者数(人) (計画)	301	-	247	319 (300)		
		参加者の満足度(%) (計画)	60	-	96	84 (80)		
	事業費 (千円)	今年度予算額	247	今年度		2【説明】講師謝礼ほか		
		前年度決算額	225	決算見込額	245	差引	-20	
成果・効果	成果・効果	学習障がいをはじめとする発達障がいについて非常に関心が高く、また、こども園・保育所(園)、小・中学校のほか、各種団体に参加を呼びかけたこともあつたか、多くの参加があつた。自己肯定、前向きに考えることの大切さなど認識を深めることができた。						
	課題	参加者アンケートの意見を見ると、参加者が知りたいこと(期待していたこと)と、講師が話したい内容に、時間配分や当日の雰囲気等で若干ずれがあつたかもしれない。(レジュメの項目に触れていないものがあつた。講師自体が時間の推移を見ながら判断された部分もあるが…)						
	改善方針	内容、時間配分等の講師との事前の打合せ・確認を十分に行う。						
評価	最終評価	【意見等】・講師が依頼された内容を十分包含するよう講演してもらう必要がある。 ・講演会へ参加する仕組みを十分に考え参加者の知りたいことに答えられるようにしてほしい。						
	C							

※ 評価確認事項

★評価の観点

① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	23
		担当課名	生涯学習課
【評価事務事業：当初確認事項】			
事業名	じんけんフェスタ		今年のしごと チラシ等 P29
教育ビジョン	小項目	5 人権を尊重する気運が社会に根付き、豊かな人間性や社会性を身につけた人があふれる町	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	4 人権尊重まちづくりの推進	
事業の目的・概要	【目的】 町民に人権を身近に感じてもらうことにより人権意識の高揚を図る。 【概要】 金子みすゞ記念館館長矢崎節夫氏の講演、小・中学生や事業所人権担当等による意見発表、人権標語等の作品展示、人権劇、物品販売等（住民参加型事業）		
事業の効果	【効果】 人権が尊重されることの大切さを素直に実感していただくことで、人権意識の高揚が図られる。人権意識の高揚を図り、一人ひとりが人権尊重の行動をすることにより、住みよいまちづくりを推進することができる。		
具体的な取り組み	北栄町人権教育・啓発推進協議会への人権啓発委託事業に町が共催する形で実施。 【開催日】 平成26年11月29日（土） ・6月 こども園、保育所（園）、小・中学校、事業所等に出品、出演等協力依頼。 ・8月人権教育・啓発推進協議会理事会で内容の詰め。		

【最終評価】

事務局	事業実績	11月29日（土）、大栄農村環境改善センターで開催済み。小学生によるいじめをなくそうサミットの活動報告、中学生の人権作文発表、金子みすゞ記念館館長の矢崎節夫さんによる講演、町内こども園・保育所（園）、小・中学校、高等学校の作品展示を行った。司会はふるさと大使のほのまる。参加者183人。						
	指標 （具体的な数値目標） の達成度	指標名／単位	H23	H24	H25	H26	H27	H28
		参加者／人	-	-	253	183		
		事業費 （千円）	今年度予算額 350	今年度 前年度決算額 289	今年度 決算見込額 332	差引 18	【説明】 講師謝礼ほか -43	
	成果・効果	身近な人たちの人権に関わる取組や意見を聞くこと、また、人権の視点で綴られた詩に触れることなどを通して参加者が共感し、人権意識の高揚につながった。 （アンケート結果：内容に満足 72%、人権問題について関心や理解が深まった 89%）						
	課題	同日、町内で人権関係事業が重なったこともあり、参加者が目標の300人に対して183人（61%）と大きく下回った。まず、参加者を増やすこと。						
改善方針	適切な開催日時の設定と早めの周知（町外への周知検討要）。また、強制と捉えられることが無いような各種団体等に対する動員と一般への波状的参加呼びかけ。							
評価	最終評価	【意見等】・全町横断的に行事日程の統一的な管理が急務である。機会損失である。 ・参加者を増やす工夫が必要である。						
	D							

※ 評価確認事項

★評価の観点

- | |
|---------------|
| ① 継続・単年 |
| ② 対象者、参加者 |
| ③ 参加者の満足度 |
| ④ 予算措置 |
| ⑤ 教育ビジョンへの貢献度 |

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

- | | |
|---------------------|-------------------|
| A = 目標を大幅に達成できた | D = 目標を一部達成できなかった |
| B = 目標をいくらか超えて達成できた | E = ほぼ全く達成できなかった |
| C = 目標どおり達成できた | |

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	24
		担当課名	生涯学習課
【評価事務事業：当初確認事項】			
事業名	人権教育推進協力員、地区推進員等の研修		今年のごと ちらシ等 P29
教育ビジョン	小項目	5 人権を尊重する気運が社会に根付き、豊かな人間性や社会性を身につけた人があふれる町	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	5 関係諸機関、団体との連携及び指導者の育成	
事業の目的・概要	【目的】 町全体又は自治会における人権教育の推進役としてスキルアップを図り、本町の社会人権教育の柱である「人権を学ぶ会」の円滑で効果的な運営を行っていただく。 【概要】 人権教育推進指導員を30人に増員し、研修会の開催や資料の提供によりスキルアップを図る。人権教育地区推進員は、人権を学ぶ会に向けて、研修等を通じて徐々に主体性や人権意識を高めていく。		
事業の効果	【効果】 推進指導員においては、小地域懇談会等での適切な指導や助言ができ、地区推進員においては、研修テーマや研修方法について主体的に決定し、運営することができる。		
具体的な取り組み	○6月に人権教育推進指導員は、当年度の「人権を学ぶ会」の学習テーマ、教材等について企画・立案し、8月には事前研修の会を開催して、学習テーマのねらいなどについて確認を行い推進指導員の共通理解を図る。9月から11月にかけて各自治会の「人権を学ぶ会」に助言者として参加し、質問に答えたり人権について教示する。全日程終了後、総括会議を開き、改善に向けて検討する。 ○人権教育地区推進員は、2月に開催する研修会で、人権学習の必要性や地区推進員の役割などについて理解していただき、6月の地区推進員会議では、人権を学ぶ会の複数の学習テーマ案について説明し、各自治会の必要に応じた実施計画の作成・提出に入っていた。8月には学習内容や日程、実施にあたっての留意事項等の確認をしていた。9月～11月にかけてそれぞれ住民への参加呼びかけと人権を学ぶ会の円滑で効果的な運営をしていただく。		

【最終評価】

事業実績	人権教育推進協力員を対象に「人権を学ぶ会」の開催に向けた研修・打合せ等の会議を6月と8月に、総括の会議を1月に開催した。また、人権教育地区推進員を対象に、人権を学ぶ会の実施計画作成と運営に関する会議を6月と8月に開催した。 地区推進員を対象にした研修会を3月19日に実施予定。							
	指標名／単位		H23	H24	H25	H26	H27	H28
	推進協力員の会議参加(人)		32/46	31/42	34/42	35/44		
	地区推進員の研修会参加(人)		207/332	218/335	224/333	121/218		
	事業費 (千円)		今年度予算額 80	今年度 決算見込額 52	60	差引 -8	20【説明】年報酬	
成果・効果	人権教育地区推進員を中心に全自治会で「人権を学ぶ会」が計画・実施された。また、その会の中で、人権教育推進協力員が適切な助言等を行い、気づきやより深い認識につなげることができた。							
課題	人権教育地区推進員の会議参加者の割合が減っている。また、独自の学習内容等を設定する自治会が少なく、地域の課題等を考慮した主体的な学習についても検討してもらう必要がある。 人権教育推進協力員の確保目標とする20人に達していない。(現在15人)							
改善方針	新しい地区推進員等を対象にした研修会を参加者増の取り組みをして3月に開催し、地域における人権学習の必要性と人権教育推進員の役割について認識を高めるための研修を行う。また、推進協力員の確保に向けて、有識者や各種関係団体等に対して引き続き就任や適任者の紹介等の要請を行っていく。							
評価	最終評価	【意見等】・推進指導員の会議参加は増えているのに地区推進員の研修参加が前年割れである。また推進協力員の確保も急務である。 ・目標とする人数をしっかりと確保して進めてほしい。						
	D							

※ 評価確認事項

★評価の観点

① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

【評価事務事業：当初確認事項】

		整理番号	25
		担当課名	生涯学習課
事業名	民芸実習館活用講座		今年のしごと チラシ等 P31
教育ビジョン	小項目	6 学習やスポーツに積極的に参加し、文化や芸術に親しみ、心身ともに健康で、自らの夢を実現させる人があふれる町	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	5 文化・体育施設の充実及び有効活用	
事業の目的・概要	【目的】 木工・陶芸・油絵・水墨画等の製作の場となる民芸実習館の活用と維持管理 町民の文化・芸術活動の推進と学習機会の提供 【概要】 各種教室の活動及び公民館講座を開催する。、施設を活用することで生涯学習の場を提供する。		
事業の効果	【効果】 町民の文化・芸術活動をサポートすることで、地域住民の生涯学習の場が形成され、活動の継続性にもつながっている。 新規のサークル等が誕生する。		
具体的な取り組み	① はじめての陶芸教室・・・全町民に募集し、1回10名程度で実施する。 講師に謝金あり 初級2回中級1回計画6月～10月 ② 木工教室・・・全町民に募集をし、5名程度で実施する。 講師謝金あり 年3回実施予定 8月～11月計画		

【最終評価】

事務局	事業実績	① はじめての陶芸教室・・・初級7/13実施参加者7名・中級9/7実施参加者6名 ② 木工教室・・・8/4・11 9/8実施 延12名参加						
	指標 (具体的な 数値目標) の達成度	指標名/単位	H26					
		はじめての陶芸教室参加者	1回7名					
		はじめての陶芸教室中級講座	1回7名					
		木工教室参加者	3回延13名					
	成果・効果	事業費 (千円)	今年度予算額 154,389	今年度 120,389	差引	34,000	H25 229,420	絵画教室・木工教室開設講座
			前年度決算額 229,420	決算見込額				
	課題	① はじめての陶芸教室・・・講座を開催することによって、公民館まつりに出展するなど陶芸人口の増へつなげることができた。 ② 木工教室・・・数回講座に参加することによりレベルアップし、公民館まつり作品展に出展するなど、木工人口増へつなぐことができた。女性の参加も3名みられた。						
	改善方針	① はじめての陶芸教室・・・講師さんと事前協議をする。作品鑑賞会を早期に実施し、次につなげていく。 ② 木工教室・・・新規に講座に参加していただけるように、広報に努める。 更なるPR及び教室生へ働きかけを行う。						
	最終評価	【意見等】 ・参加者の性別・年代別が不明であるが、幅を広げてはどうか。 ・木工教室などはじめに作る作品の写真や園芸用とかにすぐ使えるもの等を活用し心を動かすパンフレットにしてほしい。						
評価	C							

※ 評価確認事項

★評価の観点

① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

整理番号

26

【評価事務事業：当初確認事項】

担当課名

生涯学習課

事業名	北栄ゆら由良 川くだり		今年のしごと	チラシ等
教育ビジョン	小項目	6 学習やスポーツに積極的に参加し、文化や芸術に親しみ、心身ともに健康で、自らの夢を実現させる人があふれる町	P31	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	7 公民館活動の推進		
事業の目的・概要	【目的】 豊かな大地を支え、住民生活の源となる由良川の素晴らしさと風光明媚な風景を生かし、水と自然に親しむことで地域生活を身近に感じ、愛着や誇りの持てるまちづくりを推進する。 【概要】 仲間とともに自らイカダを作成し、川くだりを行う。			
事業の効果	【効果】 水の大切さ、河川環境保護における意識の高揚、わが町の豊かな自然の再発見、イカダづくりを通じた地域の仲間づくりなどにより地域活性化を促進する。			
具体的な取り組み	開催予定日：8月3日(日)・・・8月第1日曜日 開催場所：由良川(瀬戸宮ノ下橋スタート～由良宿コナン大橋ゴール) 種目：イカダの部(一般の部・小学生の部)、ゴムボートの部(家族の部・レディースの部) 表彰：タイムレース賞、アイデア賞 (参考経過) 平成元年度に旧大栄町30周年記念事業として開催。平成15年に15回大会で幕を閉じる。平成18年度に北栄町事業として再開し、平成20年度に実行委員会を組織し、町と教育委員会で共催。			

【最終評価】

事務局	事業実績	イカダの部参加チーム数が昨年22チームから25チームと増加した。					
	指標 (具体的な数値目標)の達成度	指標名／単位	H24	H25	H26		
		参加チーム数(イカダ)	15	22	25		
		参加チーム数(ボート)	19	5	3		
	成果・効果	事業費 (千円)	今年度予算額 624	今年度 決算見込額 601	599	差引	25【説明】
							2
事務局	課題	参加チーム数がなかなか増えない。 参加チーム、不参加の自治会・子供会・生徒会・事業所にアンケートした結果、大会自体は十分に認知され、評価も悪くなかったが、制作及び経費負担大、少子化、保護者の多忙化、事業所における採用減と高齢化などにより参加困難の声が多かった。 廃止も含めた抜本的な検討が必要。 また、賞金が多く出ていることに対して意見がある。					
	改善方針	イカダ制作にかかる負担軽減。 参加しやすい諸条件の整備。 今後について慎重に検討をする必要がある、					
	評価	最終評価	【意見等】・チーム数の過去数年の推移や事業目的のマッチングで中止してはどうか ・予算に見合ったレースの作り方を考える必要がある。 ・目的が明確に見えない。				

※ 評価確認事項

★評価の観点

- ① 継続・単年
- ② 対象者、参加者
- ③ 参加者の満足度
- ④ 予算措置
- ⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

- | | |
|---------------------|-------------------|
| A = 目標を大幅に達成できた | D = 目標を一部達成できなかった |
| B = 目標をいくらか超えて達成できた | E = ほぼ全く達成できなかった |
| C = 目標どおり達成できた | |

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

整理番号

27

担当課名

生涯学習課

【評価事務事業：当初確認事項】

事業名		土曜講座(「源氏物語を読む」「福本和夫を識る」「郷土史入門」)の開催		今年のしごと	チラシ等
教育ビジョン	小項目	6 学習やスポーツに積極的に参加し、文化や芸術に親しみ、心身ともに健康で、自らの夢を実現させる人があふれる町		P31	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	8 図書館活動の推進			
事業の目的・概要		【目的】 講座を定期的開催することにより、学びの時間、読書の時間を参加者自らが作り出す機会とする。このことを図書館資料の活用促進及び読書活動の推進、生涯学習につなげる。 【概要】 「源氏物語を読む」ー図書館資料を活用しながら、逐語訳で読んでいく。「郷土史入門」ー町独自のテーマにそって講座を開設。「福本和夫を識る」ー郷土を代表する人物の一人として見識を深める。			
事業の効果		【効果】 自ら学ぶ機会を提供し開催することで、参加者の個人学習の意欲が高まり、心豊かな生活に資する。講座を通じた学びが、図書館利用の促進につながる。 図書館が町民生活の一部として位置づけられる。 町にまつわる様々なことについて関心が高まり、理解が深まる。			
具体的な取り組み		・「源氏物語を読む」…1000年という長い歴史を経て今もなお読み継がれている「源氏物語」の時代背景、日本の伝統文化などを講師の説明を交えながら講読する。今年度は第6巻「末摘花」、第7巻「紅葉賀」。毎月第2・4土曜日に開催。 ・「郷土史入門」…①郷土史概説、②日本の文化、日本の歴史、地域史、風土記、社会制度、時代背景など③自然、地理、産業など。①～③について町に関連する内容で講座を開設する。今年度は年7回開催予定。関連資料の展示も行う。			

【最終評価】

事務局

事業実績	・源氏物語講座-「完了済み」毎月第2・4(土)に開催。全20回開催した。 ・郷土史入門講座-「完了済み」毎月第3土曜日に開催。全7回開催した。 ・「福本和夫を識る講座」-「完了済み」図書館まつりの一環で全1回開催した。						
指標 (具体的な数値目標) の達成度	指標名／単位						
	「源氏」参加者		29人/25人				
	「郷土史」参加者		27人/25人				
事業費 (千円)	今年度予算額	347	今年度	347	差引	0【説明】	
	前年度決算額	295	決算見込額		295		
成果・効果	・講座に関連した本や他の分野の本の利用促進につながった。 ・参加者は微増している。 ・郷土史への関心が高まっている。(アンケート結果より)						
課題	両講座とも、今後、自分たちで計画しながら講座を続けていくにはどうすればいいか。						
改善方針	・両講座とも引き続き継続する。 ・「源氏」講座の参加費を300円から400円に上げ、講師謝金と雑費に充てるようにし、自主運営を目指す。						

評価	最終評価	C	【意見等】 ・ぜひ「源氏物語を読む」は自主運営に移行し、本町がしなければならない内容に傾注すべきである。 ・参加者が毎年同じになってこないか。 ・新しい人が増える工夫をして継続してほしい。

※ 評価確認事項

★評価の観点

① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。